



教育拠点

玉名教育拠点

1. 活動概要

玉名教育拠点は2015年4月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、現在、指導医2名、後期研修の専攻医3名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポートもあり、病院の診療支援および実践的な教育の提供を継続しています。

2020年初期臨床研修プログラム研修医(基幹型1年次:3名、2年次:3名、協力型:計4名)特別臨場実習(クリニカル・クラークシップ)の「総合診療科」の受け入れを行なっております。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療にとり組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行なっています。

院内のコロナ対応では院内の感染対策チーム、有明保健所、郡市医師会および近隣の感染症指定病院と連携をとり、発熱外来の設置、発熱者のフォローアップの外来を新たに開始しました。COVID-19の入院に対しては担当医のローテーションに感染チーム医師・呼吸器内科医師とともに入りました。小山医師は有明医療圏で発生した大規模クラスターの際は外国人要請者の寄宿舍への往診、健康観察にも参加しました。

病院統合移転・患者移送で公立玉名中央病院側では小山医師が、玉名地域保健医療センター側では3月より玉名拠点・総合診療科グループに参加する佐藤先生がリーダーとして対応しました。新病院開業後は新たに運営が始まった地域包括ケア病棟と地域連携外来での診療にも参加します。

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	1	オリエンテーション
	17	院内新型コロナ感染症対策本部設立
5	8	玉名在宅ネットワーク会議
	28	地域医療支援病院運営委員会
6	22	公立玉名中央病院 CPC
7	31	玉名在宅ネットワーク会議
8	27	地域医療支援病院運営委員会
9	26	有明地区研修医合同カンファレンス
10	5	郡市医師会新型コロナウイルス会議
	7	レスモア カンファレンス
11	1	看護師特定行為研修指導者講習会
12	29	郡市医師会新型コロナウイルス会議
1	9	内科学会九州地方会教育セミナー
	25	郡市医師会新型コロナウイルス会議
2	11	熊総研 学術集会・総会
	25	地域医療支援病院運営委員会
3	2	くまもと県北病院開業
	19	初期臨床研修 修了式



くまもと県北病院開業

3. 活動報告

1 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部の1チーム3週間の特別臨床実習(総合診療科 クリニカル・クラークシップ)を玉名教育拠点で受け入れています。

本年度も各学生に入院患者の担当を割り当て、それぞれが日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加し、診療の中から自らのクリニカルクエストを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践することとし、学習成果の発表を抄読会形式で実施し、評価の場としております。

残念ながら本年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、実習そのものが中断されたり、感染防御の観点から、訪問診療などのカリキュラムが十分に遂行できない状況でした。そんな逆境の中でも訪れた学生は積極的に実習に参加し、コロナ禍でこそ経験できた実習を含め、最低限の成果は得られたものと考えます。

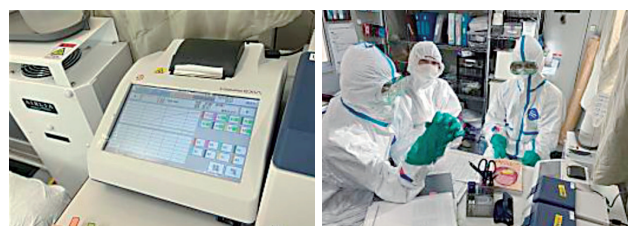
2021年度以降、以前の学習手法をさらに発展させ実行する為には、指導医、専攻医、研修医、医学生の「屋根瓦式」の指導・教育体制が不可欠です。来る2次年度も、多くの医学生が満足できる地域での医学教育の環境、質の向上に努めたいと思います。

玉名教育拠点における週間スケジュール

1-2週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー	プレゼン研修	
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療(安成) or 緩和ケア回診(不定期) or 病棟研修	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修			皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

3週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー	プレゼン研修	
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療(安成) or 緩和ケア回診(不定期) or 病棟研修	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修		TMEC	皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

- プライマリケアレクチャー：
熊本県地域医療支援機構で受講可能なオンラインレクチャー
- モーニングレクチャー：
臨床のみならず、地域医療に関するレクチャー
- リエゾンカンファ：
総合診療科入院患者の退院に向けての目標設定、艦長調整を多職種で検討するカンファレンス
- TMEC：
クリニカルクラークシップ医学生による担当症例についての発表会



防御着の着脱及び拡散増幅検査(LAMP法)実習

◆ 初期臨床研修(総合診療科研修)

2020年度は公立玉名中央病院の基幹型研修プログラムに3名の研修医がマッチし、基幹型2年次3名と熊本大学医学部附属病院のプログラムの協力医療施設として2名、国立熊本医療センタープライマリケアコースの協力型として2名、計14名の初期臨床研修医(研修医)を受け入れました。玉名教育拠点は、総合診療科研修および地域医療研修を担当し、指導を行いました。

まず総合診療科研修で研修医は、外来・入院・訪問診療を研修し、自らが診療の始めから終わりまでを一貫して実践し、研修医中心の参加型研修を実践しました。研修医は患者を「主治医」として担当し、指導医との連携の中で中心的な役割を担います。この事で、研修医からは「自分の患者」という意識が芽生え、責任感と医師になったことの実感が得られたとの評価を得ています。

今年度はほとんどの期間、コロナウイルス感染防御の観点から、訪問診療、カンファレンス、セミナーの開催および学会、研究会への参加が制限され残念であり、コロナ禍での研修の再調整は課題だと感じています。

◆ モーニングレクチャー

モーニングレクチャーとは…

*各診療科、部署のエキスパートから実践に即した知識や技術を学ぶ場です。

*指導は医師に限らず、様々な職種のスタッフに協力していただき、幅広いテーマの研修が可能となっています。

今年度はコロナウイルス感染対策のため、残念ながらスケジュールを消化できませんでした。



◆ 講演会・セミナー

コロナウイルス感染の蔓延で講演会・セミナーの中止が相次ぎ、研修医の発表の機会が制限されました。

その中で有明地区研修医合同カンファレンスはWEB開催となり、初期研修2年次の大潮先生が川崎病の症例発表を行いました。



◆ 総合診療専門医(専攻医)研修

玉名教育拠点および公立玉名中央病院では熊本大学病院 総合診療専門医研修プログラムの「総合診療II」、「内科研修」、「小児科研修」および「救急研修」を実施しており、2020年度は3名の専攻医が研修しました。彼らは自らの診療研修にとどまらず、初期研修医、医学生の教育の一端を担っています。この為、病院機能もかなりの部分で専攻医に依存する部分も多くなっており、専攻医の負担を軽減するシステムの構築と総合診療専門医研修プログラムへのリクルートは重要になっています

II 診療

公立玉名中央病院にて、総合診療科での外来および病棟診療を行なっています。また、同院の他診療科からの相談や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、玉名教育拠点に常駐する教員2名、スタッフ医師(家庭医療専門医)の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員も外来診療、救急医療に携わりました。

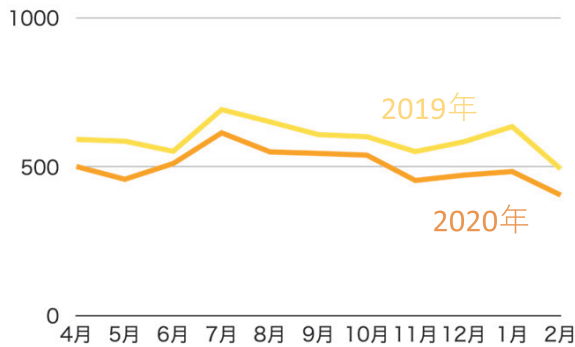
公立玉名中央病院 総合診療科

月	火	水	木	金
小山	小山	田宮	田宮	小山
草野	北村/下地	中村	(小山)	草野
下地	田宮	北村	田宮	中村
佐藤(午後)				北村
				佐藤(午後)

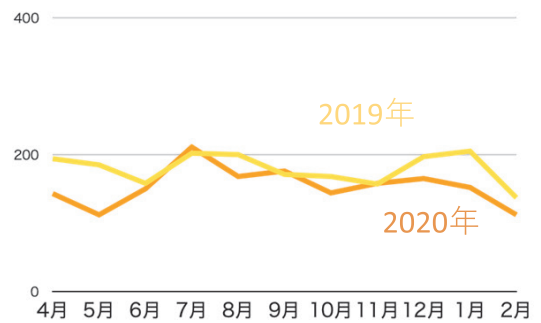
III 年間診療報告

玉名教育拠点開設から6年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、平日の救急外来を担っています。コロナ禍で受診控えで受診患者数が減少する中でも入院患者数はほぼ維持されています。また、救急診療では受入件数はわずかに減少していますが、不応需率は低下しています。

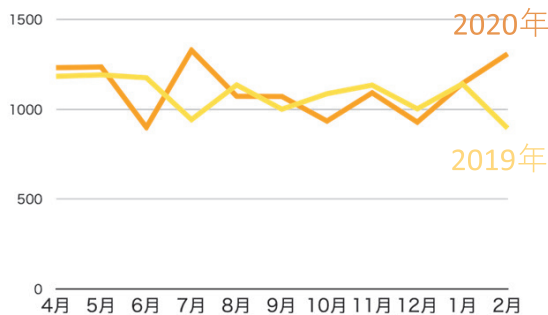
外来受診総数 (人)



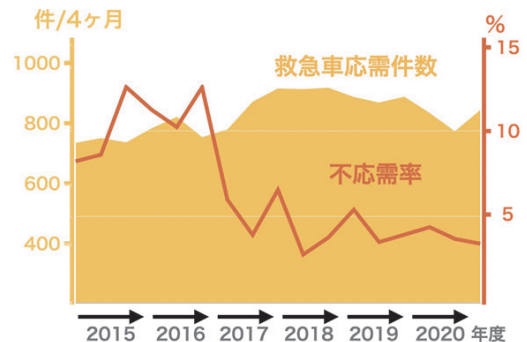
初診者数 (人)



入院担当患者数 (人)



救急診療



天草教育拠点

1. 活動概要

天草教育拠点は、多くの方々のご尽力により、熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座の2番目の学外教育拠点として、玉名教育拠点に引き続き2019年4月に設置されました。2019年度は2名の常駐寄附講座教員と後期研修の専攻医1名でスタートしています。

設置の目標としては、①総合診療科としての天草地域の特性を踏まえた形での医療貢献、②地域医療を含めた卒前卒後教育の充実、です。

医療貢献という点では、天草地域医療センター総合診療科として、おもに2次医療機関としての病院総合医の役割を担っています。天草地域の小病院、クリニックなどから紹介していただき、主に紹介外来としての一般外来を毎日行っています。また、入院診療、救急外来、少数ですが在宅医療も行っています。教育に関しては、2020年度はクリニカルクラークシップの受け入れ開始となり、1名の学生受け入れを行いました。また、初期研修医の受け入れも行えるようになり、システム上、学生や研修医がほぼいなかった昨年に比べると、少しですが前進しました。そのような学生や研修医、また、昨年同様、地域医療実習の学生の一部、早期臨床体験実習の学生には、実臨床での実践的な教育、地域の特性を理解しつつ目の前の医療に落とし込む地域医療の教育などを行ってきました。

今後も、天草地域医療センター総合診療科に対して特に地域医療機関や院内から求められることは、主に病院総合医(特に総合内科分野)としての役割だと思えます。今後も地域医療機関や院内のニーズも考慮しつつ、教育拠点としてできること、現状のマンパワーでできることを考えていく必要があると思えます。

2. 年間活動実績

- 毎週3回 WEB症例検討カンファレンス
- 毎月2回 合同WEBカンファレンス
- クリクラ受入1名

3. 活動報告

① 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、1ターム3週間の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)を実施しており、地域医療実習として天草地域医療センターに1ターム1~2名の5年生が実習に来ています。このうち、実習中は1週間毎に各科を選択できるため、総合診療科を選択した学生を担当いたしました。

また、今年度から総合診療科としてのクリニカルクラークシップ受け入れも開始し、3週間の期間で1名に来てもらいました。

内容としては、入院患者の担当を割り当て、指導医と直接相談しながら医療チームの一員として積極的な診療参加を促しました。また、毎朝のカンファレンスでプレゼンテーションを行いました。外来、救急では、初診患者の病歴や身体所見などから検査計画や診断、治療につなげるトレーニングを担当医とともに行いました。さらに、天草の地域性も考慮し、通院にかかる時間や交通機関などの影響、普段の生活の状況把握、保健福祉なども含めた地域リソースの把握の重要性など、総合診療学的な内容も症例から直接的に学ぶ機会を設けました。

総合診療科としてのクリニカルクラークシップとして来た学生は、担当患者から患者中心性について興味を持ち、実習終了に際し科内で発表してもらいました。

◆ 早期臨床体験実習

熊本大学医学部では、早期臨床体験実習として、3年生が各病院での実習を行われています。天草地域医療センターにも3名の学生が実習に来ることができ、すべて総合診療科で担当しました。

内容としては、認知症患者との雑談、外来患者へのインタビュー、リハビリテーションの参加、訪問看護の参加などを行いました。天草地域をベースに、地域の特徴を理解、把握したうえで診療を行うことの重要性を認識してもらえたと思います。

◆ 初期臨床研修医

天草地域医療センターの初期臨床研修医は、昨年はシステムの問題で総合診療科ローテートが終盤まで許可されておりませんでした。今年度は特にシステム上もローテートが許可されており、複数名の研修医が選択してくれました。

指導医と連携しながら入院患者を担当し、医療チームの一員として積極的に診療に参加しました。また、地域志向、患者中心の医療、家族志向などの総合診療学的な内容も症例をもとに学びました。

今後は、より多くの初期研修医が総合診療科をローテートできる体制を作っていただけることを大いに期待しています。

◆ 総合診療後期研修医

総合診療研修プログラムのうち「総合診療Ⅱ」を担当しています。専攻医はこの1年は不在でした。

今後も、玉名、大学とも連携しつつ、熊本全体で専攻医の充実した後期研修医指導を行える体制を作りたいと考えています。

Ⅱ 診療

天草地域医療センター 総合診療科

月	火	水	木	金
鶴田	谷口 空田	松本	鶴田	松本 武末(2020.11～)

※ 火曜日の第2、第4週は谷口医師、第1、第3、第5週は空田医師

※ 救急外来については、適宜担当している。

Ⅲ 年間診療報告

昨年度から天草教育拠点の開設、天草地域医療センター総合診療科が常勤になり、平日は毎日外来を行っています。地域の先生方からは、「何科に紹介すればいいか悩む症例を紹介しやすくなった。」「原因のわからない症状でも相談できて助かる。」等のありがたい評価もいただいています。また、COVID-19感染対策についても、発熱外来などで対応しています。当院の総合診療科は、二次病院における病院総合医の役割として、

- ・ 医師会の先生方と密な連携をとり、天草の地域医療へ貢献をする事
- ・ 院内で専門医の負担軽減を目指しつつ院内連携を強化する事

が重要な役割だと考えています。

外来・入院で診る疾患としても多分野に及び、悪性疾患(悪性リンパ腫、白血病、胃癌、大腸癌、肝細胞癌、膵臓癌、胆管癌、尿管癌、肺癌、脊髄神経麻痺など)、各種疾患の診断や各科への紹介、末期患者の緩和治療など)、感染症(EBV伝染性単核球症、百日咳、マイコプラズマ、カポジ水痘様発疹症、深在性真菌症、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、椎体炎・椎間板炎、腸腰筋膿瘍、感染性心内膜炎など)、膠原病関連(関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎など)、運動器疾患(圧迫骨折、各種骨折や外傷、解離性運動麻痺など神経障害など)、ほかにも

悪性貧血、ネフローゼ症候群、肝硬変、気胸、乳糖不耐症、めまい症、認知症、アナフィラキシーなどがあります。それぞれ、外来や入院で診断をつけて適切な科に紹介したり、当院で入院治療や外来フォローアップを行ったりしています。

また、現在当科が行っている取り組みの一つとして、ST、管理栄養士、認定看護師等と連携し、摂食嚥下チームのさらなる充実化を行っています。外部より歯科衛生士の参加なども計画していましたが、COVID-19感染対策の一環で外部招聘が難しく、現在のところ現実化していません。嚥下造影検査の検査数増加、嚥下機能についてアドバイザーとして地域ケア会議への参加なども行っています。